

放課後の子どもの育ちを豊かにするために

近年、「子どもの放課後」が注目を集めています。子どもの遊び環境が年々厳しさを増していることは周知の事実ですが、その対策として、子どもが放課後に過ごす場の拡充が図られ始めました。福岡市が推進する「わいわい広場」や、NPO主体の中高生の居場所づくりがその最たる例です。博物館や図書館などの施設も、子どもにとって貴重な居場所です。放課後児童クラブにおいては、昨年度より「放課後児童支援員」の資格認定研修がスタートし、より高い専門性が問われるようになってきました。そのような流れの中、「子どもの放課後」に多様な民間企業が参入し始めています。

子どもの“放課後”が激動の時期を迎えているからこそ、放課後の子どもの育ちについて、今一度議論が必要なのではないでしょうか。実践現場では何を重視し、研究者は何を解明していく必要があるのか…。「子どもの放課後に多様な居場所があればよい」という時期を越え、それぞれの居場所における経験を問い、「それらの放課後の居場所に精通する、子どもの豊かな育ちのためのエッセンスは何か」を、発達心理学的視点をもとに探してみたいと思っています。ぜひ一緒に考えてみませんか。

日時

平成 **28** 年 **12** 月 **18** 日(日) **13:00~16:00**

場所

福岡市市民福祉プラザ **ふくふくホール** (福岡市中央区荒戸 3-3-39)

▼地下鉄：「唐人町」駅より徒歩7分 ▼西鉄バス：「福大若葉高校前」バス停すぐ、「黒門」バス停より徒歩5分

シンポジスト

松本 信一	福岡市放課後子ども育成課 遊び場づくり係長
	【行政の立場から】
「小学校の校庭を遊び場にする仕組みづくり」	

田島 真実	一般社団法人朝日丘コミュニティクラブ 事務局
	【実践者の立場から】
「中高生の居場所&放課後児童クラブの実践から」	

岡花祈一郎	福岡女学院大学 人間関係学部 講師
	【人材育成の立場から】
「放課後児童クラブ支援員に求められる資質」	

緒方 泉	九州産業大学 教授
	【博物館学の立場から】
「子どもの成長モデルを支援する博物館の在り方」	

南 博文	九州大学 教育学部 教授
	【研究者の立場から】
「環境心理学・発達心理学からの指定討論」	

*司会・企画主旨：山下 智也

(宮崎国際大学准教授・きんしゃいきゃんぱす代表)

参加費無料&申込不要!

【共催】福岡市、日本臨床発達心理士会 九州・沖縄支部

【後援】日本学校心理士会 福岡支部 【問い合わせ】宮崎国際大学 山下智也 tomonari_sf@gf6.so-net.ne.jp

※本シンポジウムの参加者は学校心理士または臨床発達心理士の更新ポイントを取得できる予定です。ただし、両者の資格更新ポイントを同時に取得することはできません。学校心理士資格に関しては、更新Aポイントとなります。更新Aポイントの取得をご希望の方は、シンポジウム入場の際に入口にて引換書をお受け取りいただき、シンポジウム終了時にお持ちください。また、シンポジウムの開始時間を越えた時点で入場される場合はポイントを取得できませんのでご注意ください。